

ひびきあい

学校だより 8月号

令和4年 7月20日

横浜市立新田小学校

命の輝き 地域の力

校長 村岡 靖



「うわあ、いいにおい！」

「おいしそう。今すぐ、食べたい！」

子どもたちの歓声が教室に広がります。2年生が地元の農家、西山さんの畑で採れたトウモロコシの皮むき体験をしています。西山さんが登場すると、2年生はたくさんの拍手で迎えました。コロナと熱中症対策で今年は各教室に分かれて行います。

朝採れのトウモロコシは、つやつやと黄金色に光り、命の輝きを見せてくれます。

「つやつやしてる。」

「ひげも茶色いところと、青いところがあるよ。」「ひげ、触ると気持ちいい。」

「僕がむいているトウモロコシ、校長先生食べてね。」みんながむいたトウモロコシは今日の給食で全校児童に1/3本ずつ出されます。君がむいたトウモロコシは誰のところに行くのかな。

子どもたちの目も輝いています。「ひげの本数とトウモロコシの粒の数は同じだよ。」と教えていただくと、「知ってる。テレビで見た。」との発言。今はテレビやインターネットで情報があふれ、子どもたちはいろいろなことを知っています。でも朝採れの生き生きとした瑞々しいトウモロコシのにおいや手触りを実際に感じながら、みんなで活動するこの体験はとても貴重だと思います。自然を丸ごと体で感じることは、自然で不思議だなと思う気持ちや感動、センスオブワンダーを育てます。

このような貴重な体験ができるのも、西山さんの御協力あってこそです。本当にありがとうございました。今年度は地域の教育力を学校で活用できるよう、地域学校協働本部を秋に立ち上げる予定です。地域の教育力について、何か良い情報がありましたら学校まで教えてください。

さあ、夏休みです。私は小学生の頃、夏休みに入るとすぐに群馬の祖父のところに行き、そこで長い時間過ごしました。祖父の家は利根川沿いのお寺で、今でも夏になると川の水の冷たさや土手の草いきれを思い出します。町育ちだった私は普段できない魚釣りや虫取りを田舎の友だちと思い切り楽しみました。今はコロナと熱中症でそのようなことはなかなか難しいかも知れませんが、たくさん本を読んだり、料理を作ったり、夏休みにしかできない体験ができるといいですね。8月29日に元気な子どもたちと会えることを楽しみにしています。